

WEBデザインの特異性

WEBページがこの世に現れ一般の人々が利用するようになっておよそ7年以上の歳月が流れています。この新しいメディアにも歴史らしきものも生まれ、デザインやレイアウト、インターフェイスなどにも幾つかの共通のルールが確立しつつあります。メディアにおけるデザインは絶えずユーザビリティ(使いやすさ)を追求しなければなりません。

紙メディアのデザインとは違う

モニタに表示されるWEBページは紙に印刷された情報の提示とは違った特徴を持っています。

現在の一般的なモニタ解像度は72又は96dpiである

現在普及しているディスプレイの解像度は紙等の印刷メディアに比べて粗く、細かな文字の表示には不適當である。

動画が再生できる

従来のメディアになく、アニメーションやムービー等、動的な表現が可能である。

ノンリニア(非線型)である

印刷メディアの多くはリニアな編集とユーザーに対する情報提示を行なうが、非線型な表現手段を持つWEBコンテンツはユーザーの思考とアクションによって次の情報へのアクセスが行なわれる。

テレビメディアのデザインとは違う

動画でなくてもよい

テレビコンテンツは動画を前提としているが、WEBにおいて必ずしも動画を提供する必要はない。

ノンリニア(非線型)である

テレビコンテンツは完全にリニア(線形)コンテンツであるが、WEBコンテンツはユーザーの思考とアクションによって次の情報へのアクセスが行なわれる。

違いを意識することの重要性

WEBデザインにおいて最も重要なことは新しいメディアであることを常に意識し、その特性を生かしたコンテンツデザインを試みることです。

1. ユーザーが何を期待してそのページにやって来たかを考える。
2. ユーザーが最初に目にするであろうデザインエレメントがユーザーが必要としている情報を提供しているかを考える。
3. ユーザーがそのページを訪れ次に何をしようとするかを考える。
4. ユーザーの立場でコンテンツを再検討し、本当に必要な情報と表現手段を提供しているかを考える。

参考URL

・HTMLとユーザビリティ

<http://www.tg.rim.or.jp/~hexane/ach/>

<http://www.usability.gr.jp/index.html>